

# 取扱説明書



2018. 07

インフラの未来を切り開く  
**NAKAYAMA**  
仲山鉄工株式会社

初回発行日:2018.07



# コンクリートカッター



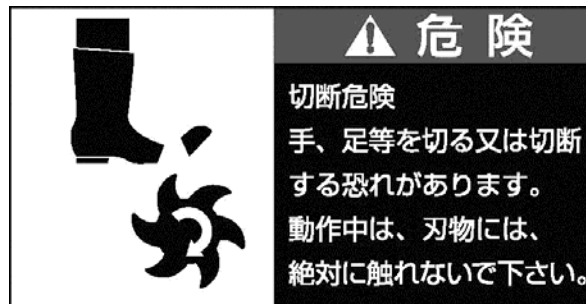
## <目次>

<b>iila 使用について</b>	<b>1</b>
・ 嚴重注意事項	1
・ 機械を動かす際の確認作業	1
・ 可燃・引火・爆発の危険性への注意	2
・ 排気ガス(一酸化炭素)中毒や酸欠事故をおこさないために	3
・ ブレード・ブレードカバーについて	3
・ 安全な作業をするために	3
・ 機械吊り上げについて	3
・ 傾斜地での使用について	4
・ 保障規定	4
<b>各部名称・操作要項</b>	<b>5</b>
・ メーターパネル部	5
・ コントロール部	7
<b>iila点検リスト</b>	<b>13</b>
・ 定期点検・交換目安	14
・ オイル一覧表	14
・ ベルト一覧表	14
・ ブレードシャフトネジ部のメンテナンス	15
・ ブレードカバー汚水通路の掃除	16
<b>エンジンオイル抜き手順</b>	<b>17</b>
<b>グリスアップ箇所</b>	<b>18</b>
<b>ベルト交換手順</b>	<b>19</b>
・ メインベルト (3 V X 3 5 5)	19
・ メインベルト (3 V X 3 7 5)	19
・ メインベルト (3 V X 5 0 0-4 R)	20
・ 走行ベルト (R A 2 9)	21
・ ファンベルト (R A 6 6)	22
・ カウンターベルト (R A 3 4)	23
・ ポンプベルト (R C L B 4 6)	24
・ ブローアヒラベルト (2 5 F L 6 7 0)	25
<b>長期間使用しない場合</b>	<b>26</b>
<b>エンジン異常ランプ (M I Lランプ) について</b>	<b>27</b>
<b>iila 配線図</b>	
<b>iila 仕様書</b>	

## iila 使用について

### 1 < 厳重注意事項 >

- (1) 保管及び稼働は第三者が接近しない場所を選んで行ってください。
- (2) 周囲への安全確保の為、下図の「一般安全警告記号」がブレードカバーに示されている事を始業前に確認して下さい。



- (3) 弊社に無断で改造をしないで下さい。
- (4) シフトレバーを手動に入れると、走行ミッションがニュートラルに入ります。その為、坂道などでシフトレバーを触ると本機械が転がり落ちて大きな事故や怪我につながりますので、**角度の付いた場所ではシフトレバーを触らないで下さい。**
- (5) エンジン稼働中にボディーカバー開口部や網目部に、手や指などを入れると大変危険です。
- (6) 切断中、本機を無理に押し込んだりブレードに負荷がかかると車体が浮き上がり、後ろに下がる事があります。切断中は、無理に押し込まず安全に作業を行って下さい。
- (7) 切断中は、必ず**デフロックをON**にして使用して下さい。
- (8) 傾斜地で本機を使用すると、機械の破損や重大な事故に繋がる可能性があります。**傾斜地の使用はできません。**
- (9) マフラー開口部（マフラー、配管）・ラジエター部等、作業後など高温になります。手や指などを入れると大変危険です。

### 2 機械を動かす際の確認作業

狭小地で本機の移動・作業・メンテナンスなどは大変危険です。広い場所・作業周辺及び機械の状態の安全が確保されている事を確認して実施して下さい。

#### (1) エンジン始動時

- ア パーキングブレーキが掛っている事を確認
- イ 平坦地であるか確認
- ウ シフトレバーを手動レンジに入れる
- エ 前後進レバーを中立にする
- オ 周囲の安全（可動・回転部分への接触・接近による事故防止、換気など）を確認

#### (2) 本機から管理者やオペレーターが離れる場合

- ア 平坦地であるか確認
- イ 前後進レバーを中立にする
- ウ パーキングブレーキを掛ける

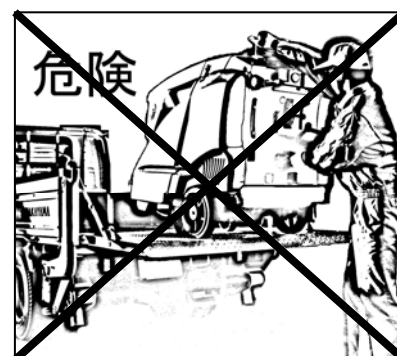
- エ シフトレバーを切削レンジに入れる
- オ エンジンを停止し、エンジンキーを抜く
- カ メインスイッチを OFF にする

### (3) 移動作業時

- ア 切削区域以外での移動時は機械からブレードを外す
- イ 傾斜地での運転は控える
- ウ 走行中・傾斜地でのシフトレバーの操作はしない
- エ ブレードミッションが付いている機械はブレードミッションのシフト位置をニュートラルの状態にする

### (4) 機械の積み下ろし作業

- ア ブレードカバー・ブレードは必ず外しておく
- イ 必ず平坦地で行う（坂道での作業は非常に危険です）
- ウ 右図のように機械の後ろ（操作盤正面）には立たない（ゲートの上に機械があるときはカッターの横から作業するようにする）
- エ パワーゲートの昇降は必ずエンジンを停止、シフトレバーを切削レンジ、ブレーキを掛けた状態で実施。また、日常からブレーキの点検を心がける
- オ パワーゲートの端部に落ち止めストッパーを設ける
- カ パワーゲートの経年劣化による垂れを改善（平坦地でカッターをパワーゲートに載せただけで下り坂の状態になっているのは非常に危険です）
- キ パワーゲートに機械を載せたままで車の移動をしない



### (5) 作業終了後

作業前や作業終了後に定期的に点検整備を行って下さい。詳細に関しては本誌の点検整備項目をご覧ください。なお、作業終了後すぐは機械が大変熱くなっているためご注意ください。異常が見つかった場合は速やかに使用を中止し、整備を実施し安全にお使い下さい。

## 3 可燃・引火・爆発の危険性への注意

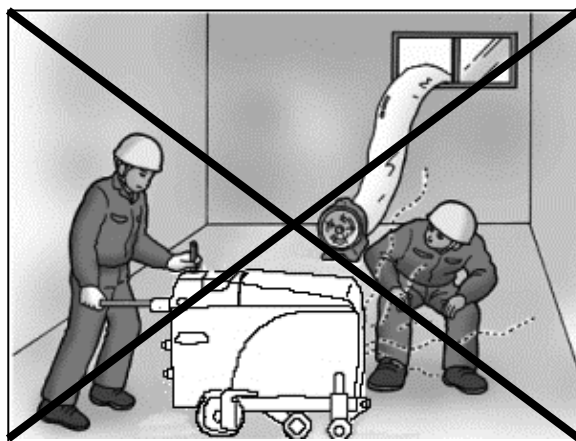
- (1) 給油作業は換気の良い場所で車体を水平にして、エンジンを停止してから行って下さい。
- (2) 給油中はタバコの火や他の火種になるものを近づけないでください。また静電気が発生しないようご注意ください。
- (3) ガソリンがこぼれないよう十分気をつけてください。万が一こぼれた場合は速やかにふき取って下さい。
- (4) 給油後はキャップを確実に締めて下さい。
- (5) マフラーなど高熱となる付近にガソリン・オイル・紙・わらくず等の可燃・引火の恐れのある物を近づけないようご注意ください。
- (6) 機械からの排気熱により周辺を変色させる、植物を枯らせてしまうなどの危険性にも配慮して作業を行ってください。

#### 4 排気ガス（一酸化炭素）中毒や酸欠事故をおこさないために

トンネル内や室内等の閉鎖空間で、エンジン式コンクリートカッターを使用すると一酸化炭素中毒になる恐れがあります。健康に重大な障害をもたらすばかりか、死亡する恐れがありますので、閉鎖空間での使用はおやめ下さい。（暖気運転中でも危険は変わりません、エンジンを作動させていれば、空間内の酸素を消費して、CO・CO<sub>2</sub>を排出します。）

一酸化炭素中毒予防について厚生労働省「建

設業における一酸化炭素中毒予防のためのガイドラインの策定について」基発第三百二十九号平成10年6月1日、「労働安全衛生規則」などを参考にして下さい。



#### 5 ブレード・ブレードカバーについて

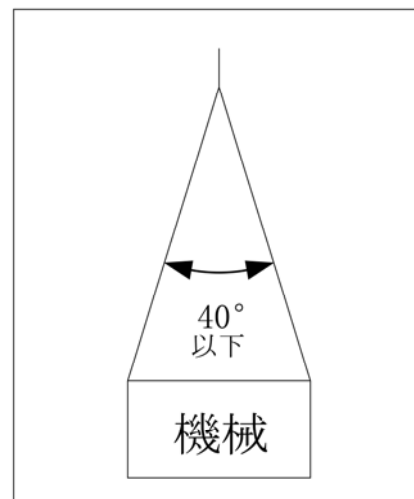
- (1) ブレード製造業者が提供した取扱説明書を参考して下さい。
- (2) コンクリートカッター用に設計されたブレードをお使い下さい。取り付け可能なブレード中心穴径は27mmとなっています。
- (3) 作業開始前にブレード（回転方向、回転数、ガタツキなど）、ブレードカバーの正しい取り付け状態である事を確認して下さい。
- (4) クラックやチップ飛び等、破損したブレードは使用しないで下さい。

#### 6 安全な作業をするために

- (1) 作業しやすい清潔な服装を着用する。
- (2) ヘルメットを着用する(あご紐をしっかり締める)。
- (3) 手袋・安全靴・防塵マスク・防護メガネを着用する。
- (4) 安全チョッキ(夜間は蛍光性の物)を着用する。

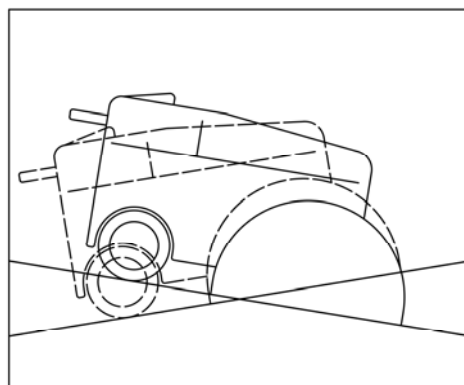
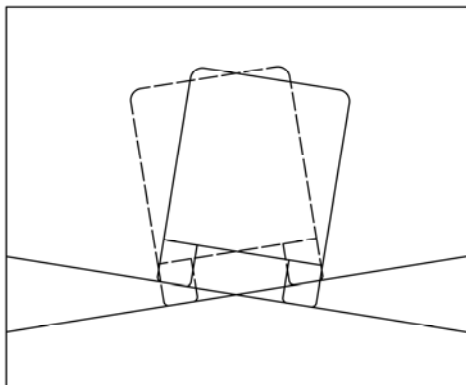
#### 7 機械吊り上げについて

- (1) ワイヤロープ等で機械を吊り上げる際、ワイヤロープの角度を40度以下にするようお願いします。
- (2) 無理な吊り方や不安定な吊り方をすると、機械の破損・重大な事故に繋がる可能性があります。おやめ下さい。



## 8 傾斜地での使用について

傾斜のある場所で本機を使用すると、エンジン油圧低下、エンジンオイル持ち出しなどの不具合が生じます。最悪**重大な事故**やエンジンの焼き付き等の破損の原因になります。

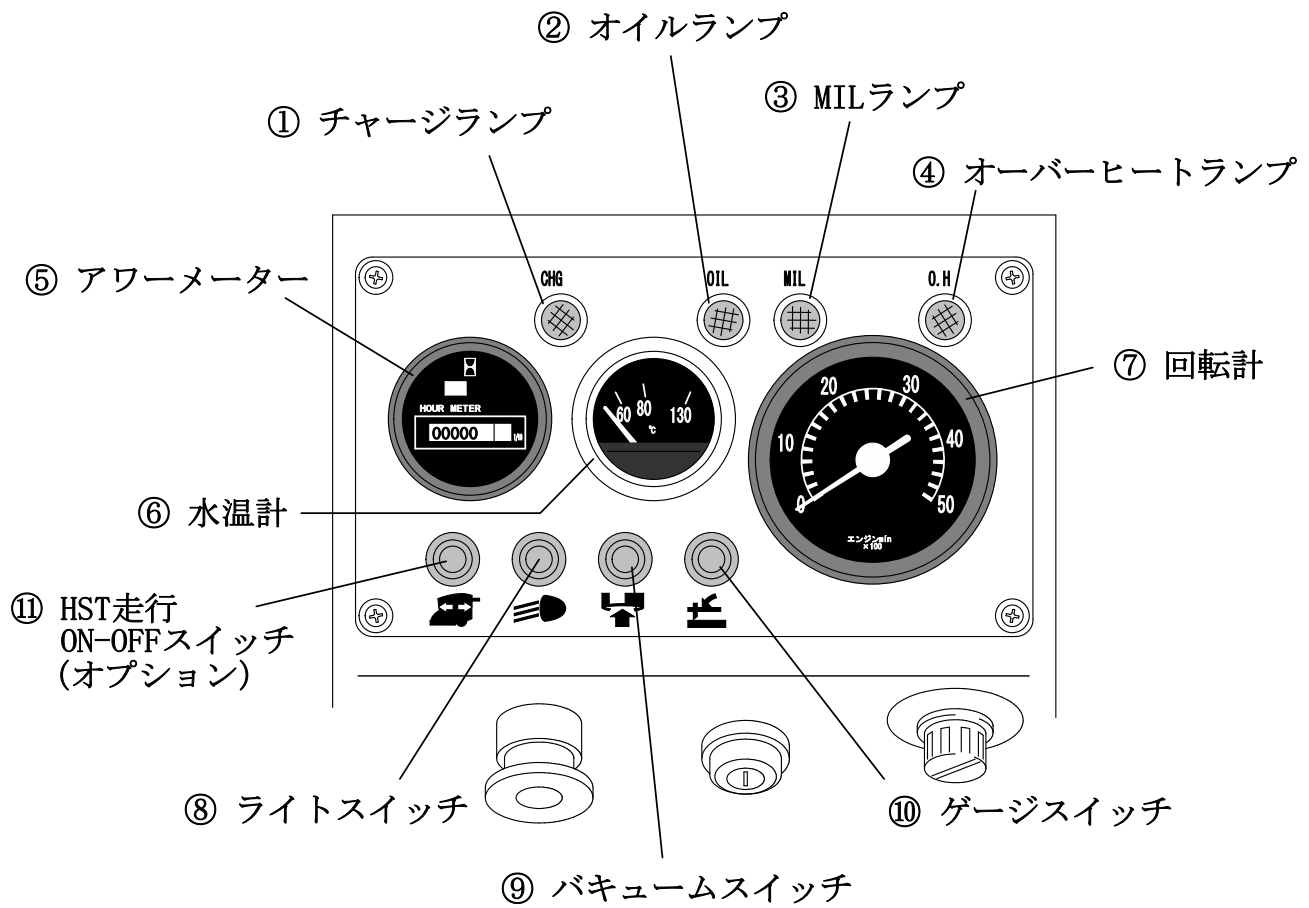


## 9 保障規定

- ・弊社コンクリートカッター最初のご購入者に対し、品質上又は製造上の欠陥と確認できた場合は製品お渡し日より6ヶ月間は、部品交換及び修理を弊社負担とします。  
ただし、ベアリング・ベルト等消耗品は保障規定外となります。
- ・エンジン及びエンジン部品につきましては、エンジンメーカーの保障規定に従うものと致します。保障を得るための購入日の根拠として、ご購入の納品書もしくは受領書を保管して下さい。

# 各部名称 & 操作要項

## メーターパネル部





## ☆ パイロットランプ

イグニッションONで点灯、エンジン作動中は消灯が正常時です。

### ① チャージランプ (赤)

充電系の異常の時に点灯します。

### ② オイルランプ (赤)

エンジンオイル量の異常の時に点灯します。

### ③ MILランプ (緑)

エンジン系の異常の時に点灯します。

### ④ オーバーヒートランプ (赤)

クーラントの温度が115° 以上になると点灯します。

※ クーラントの温度が120° 以上になるとエンジンが止まります。

## ☆ 計器類

### ⑤ アワーメーター

イグニッションON又は、エンジン動作中の時間を計測

### ⑥ 水温計

エンジン冷却水の水温を表示

### ⑦ 回転計

エンジン動作中のエンジン回転数を表示

## ☆ スイッチ類

### ⑧ ライトスイッチ

### ⑨ バキュームスイッチ

切削汚泥の吸引・排出のスイッチ

※ スイッチのON・OFFは、必ずアイドルリング状態で行って下さい。

### ⑩ ゲージスイッチ

切削ラインを示すガイドを動かすスイッチ

※ ガイドの先端にロープを結んでおけば、緊急時に手動で引き上げる事もできます。

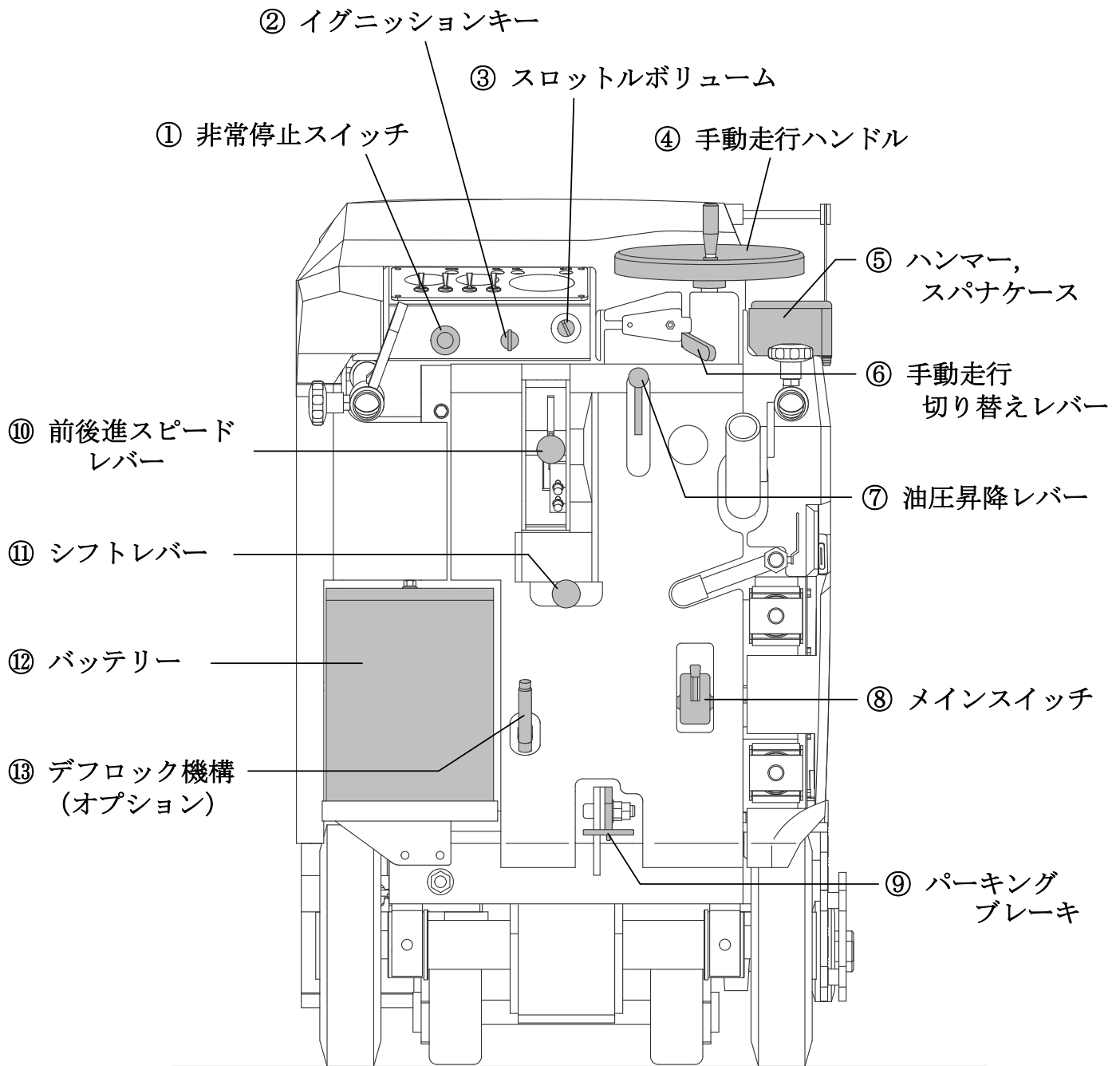
### ⑪ HST走行ON-OFFスイッチ <オプション>

スイッチOFF : 前後進レバーの位置に関係なく走行を停止します。

スイッチON : 従前の速度で走行します。

# 各部名称 & 操作要項

## コントロール部



## ① 非常停止スイッチ

- ・ 事故発生の恐れがある場合などに押せばエンジンが停止します。
- ・ スイッチを右にまわせばロックが解除されエンジンの再始動ができます。

## ② イグニッションキー

## ③ スロットルボリューム

- ・ エンジン回転数を調整します。
- ・ タコメーターでエンジン回転数を確認し適正な回転数で作業を行って下さい。
- ・ エンジン始動・停止、バキュームスイッチなどは必ずアイドルリング状態で操作して下さい。

## ④ 手動走行ハンドル

- ・ ⑩シフトレバーが手動レンジ、⑧ブレーキが解除、⑤手動走行切り替えレバーが下にある状態で手動での移動が可能になります。ハンドルを右に廻せば前進、左に廻せば後進します。
- ・ 廻送での移動、切削スピードが速い場合は危険ですので手動ハンドルをフリー（⑤手動走行切り替えレバーが上にある）の状態で作業して下さい。

## ⑤ ハンマー、スパナケース

## ⑥ 手動・走行切り替えレバー

- ・ レバーを下に入れた状態、⑩シフトレバーが手動レンジの状態④手動走行ハンドルでの操作を可能にします。
- ・ 廻送での移動、切削スピードが速い場合の④手動走行ハンドルの回転は危険です。④手動走行ハンドルをフリー（レバーを上に入れる）の状態で作業して下さい。

## ⑦ 油圧昇降レバー

- ・ 車体を上下させるレバーです。レバーを上動かすと車体は上がり、下動かせば車体は下がります。

## ⑧ メインスイッチ

- ・ ONの時はエンジンが停止していても油圧昇降レバーやゲージスイッチは、作動します。
- ・ OFFの時はエンジン及び電気を要するレバーやスイッチは、作動しません。本機から離れる時は、スイッチをOFFにして下さい。

## ⑨ パーキングブレーキ

- ・ペダルを下方方向に踏み込めばブレーキが効き、上げれば解除されます。
- ・ブレーキが効いた状態で走行すると走行装置を損傷する場合があります。
- ・機械から人が離れる場合、停車時などは必ずブレーキを掛けて下さい。
- ・緊急時（坂道で車体が急に走り出したなど）に走行を瞬時に停止する必要がある場合はブレーキペダルを素早く踏み込み、車体を停止させて下さい。
- ・ブレーキの掛りが悪いと大変危険です。定期的に点検・整備を行って下さい。

## ⑩ 前後進スピードレバー

- ・レバーを上げれば前進、下げれば後進します。
- ・レバーを倒す角度でスピード調整できます。

## ⑪ シフトレバー

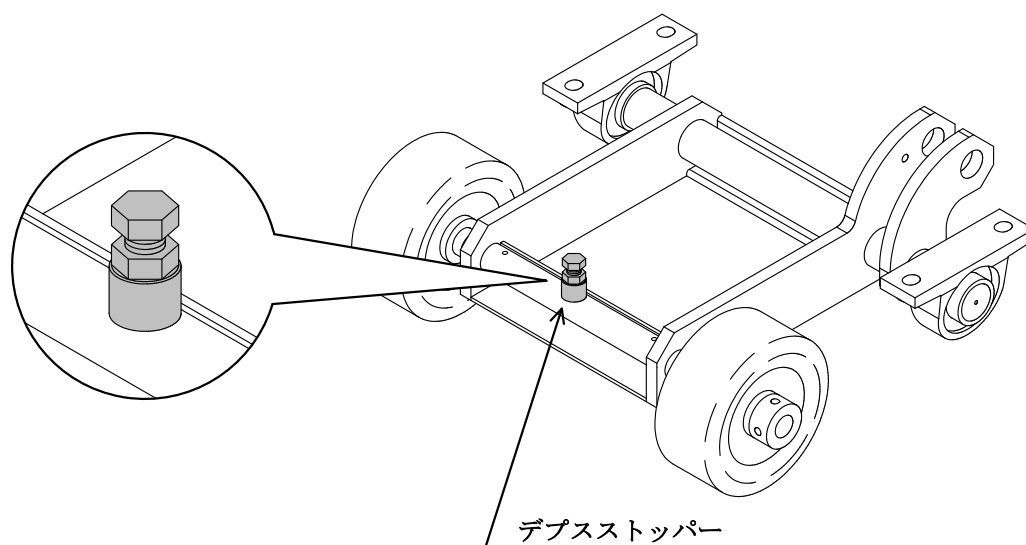
- ・廻送／手動／切削 シフトレバーを使用するレンジに合わせて下さい。
- ・シフトレバーの操作は②前後進レバーを中立にし、⑧パーキングブレーキを効かせて車体の走行を停止して行って下さい。
- ・走行中・傾斜地でのシフトレバーの操作はしないで下さい。

## ⑫ バッテリー

## ⑬ デフロック機構 <オプション>

- ・デファレンシャルを一時的にロックする装置です。
- ・レバーを上向きにするとデファレンシャルを解除し、下向きにするとデファレンシャルが効きます。
- ・左右の車輪の駆動状態に関係なく、常に同じ回転速度で双方の車輪を回転させ続けるため片輪が浮いた状態、滑りやすい路面でも駆動力を伝え、進行が可能になります。
- ・車体の旋回など左右の車輪の回転差動を要する場合には解除して下さい。

## ○ デプスストッパー <オプション>



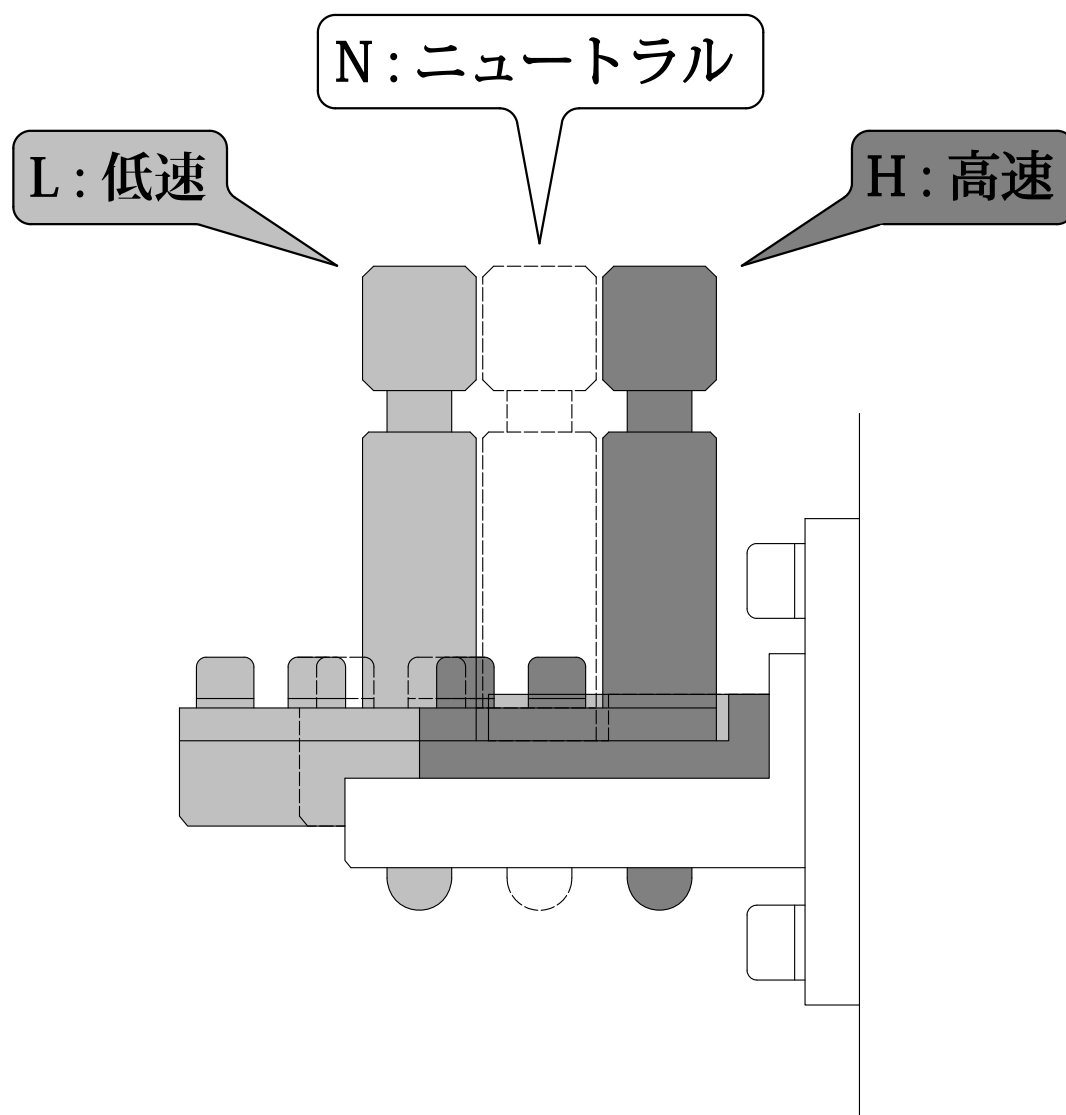
- ・ボルトの高さを調整することで車体の降下位置を一定に保つ事ができます。
- ・調整ボルトが固着しないよう定期的にグリスアップをお願いします。

※ 各部レバー・スイッチ等操作する際には、本書の<嚴重注意事項>と併せてお読みになり正しく安全にお使い下さい。

## ○ ブレードミッションについて（搭載機のみ対象）

- ・ブレードミッション搭載されている製品についてはご確認をお願いします。
- ・ブレードミッションの切り替え操作はエンジンが停止状態で行って下さい。
- ・シフトレバーは必ずピンで固定して作業を行って下さい。

## ○ ブレードミッション変速シフト位置





## iila 点検リスト

安全に作業をしていただくために、点検リストに沿って点検を必ず行って下さい。

作業前・作業後点検			
エンジン	点検箇所	点検項目	対応
停止中	ベルト	張り・破損・亀裂の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルトが緩い場合は張り直す</li> <li>・破損・亀裂がある場合は交換する</li> </ul>
	エンジンオイル	オイル量・汚れを確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オイル量が少ない場合は補充する</li> <li>・オイルが汚れていたら交換する</li> </ul>
	エンジン エアークリーナー	詰まり・汚れの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジン上部に付いている蓋を開け中のフィルターを清掃をする</li> </ul>
	ガソリン	ガソリンの量を必ず確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンの量が少ない場合は補充する</li> </ul>
	ブレードシャフト	フランジ・ネジ部 汚れの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランジ・ネジ部に粉塵や汚れがある場合は必ず清掃する</li> </ul>
稼働中	ベアリング	固着・異音がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固着、異音がある場合は交換する</li> </ul>
	ピローブロック	ガタツキ・異音がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガタツキ、異音がある場合は交換する</li> </ul>
	バキュームユニット	吸い込みの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸い込みが悪い場合はベルトを張り直す</li> </ul>
/	ブレード	破損がないか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破損したブレードは使用しない</li> </ul>
	パーキングブレーキ	正常に効くか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常に効かない場合は直ぐに整備する</li> </ul>

※ エンジンを稼働しての点検は危険です。十分注意して行って下さい。

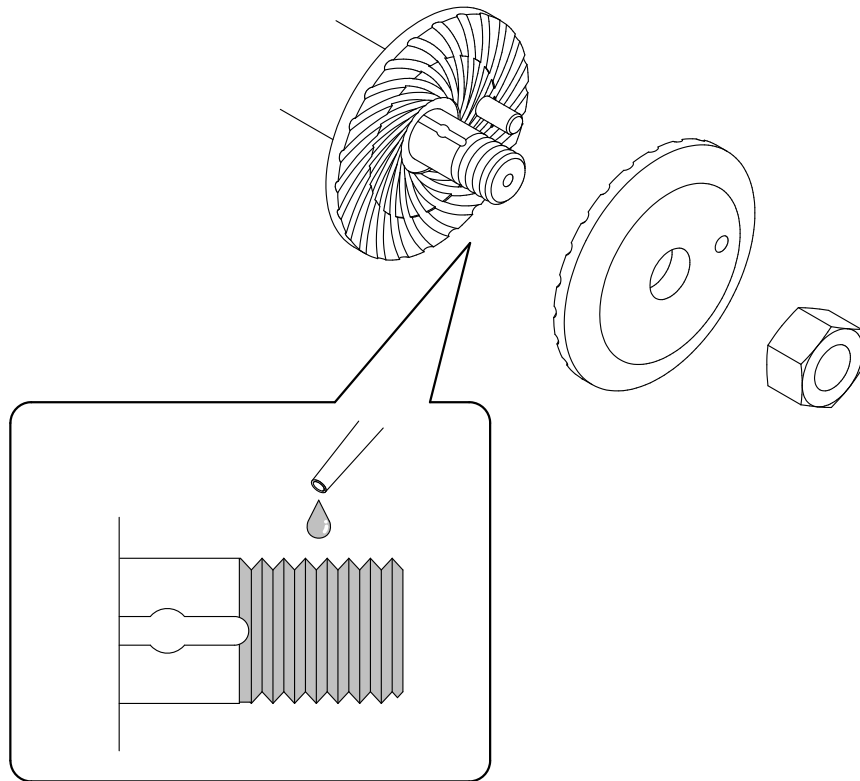


定期点検・交換目安		
点検箇所	点検項目	点検・交換目安
ガソリン	水抜き	・月に1回を目安にガソリタンク下のドレンから抜く
エンジン	エンジンオイル	・50時間毎交換
	オイルフィルター	・2ヶ月又は100時間毎交換
ブレード軸ピローブロック	グリスアップ	・30時間 毎
前車輪アームピローブロック		・200時間 毎
前車輪アーム軸		・100時間 毎
カウンター軸ピローブロック		・30時間 毎
油圧ホース 電装線	経年劣化・変質・破損	・5年を目安に交換をお勧めします

オイル 一覧表		
エンジン	エンジンオイル	SAE10W-30 相当品 3.0ℓ フィルター同時交換 3.2ℓ
HST	エンジンオイル	SAE10W-30 相当品 350ml
走行ミッション	ギヤオイル	80W-90 相当品 2.0ℓ
パワーユニット	ハイドロオイル	ISO32 相当品 1.0ℓ

ベルト 一覧表	iila 20	iila 30
エンジン～ブレードミッション	—————	3VX500-4R
エンジン～メインテンションプーリー	3VX355 4本	—————
メインテンションプーリー～ブレードシャフト	3VX375 5本	—————
エンジン～ラジエターファン	RA66	RA66
エンジン～カウンターシャフト	RA34	RA34
カウンターシャフト～HST	RA29	RA29
カウンターシャフト～ポンプユニット	RCLB46	RCLB46
プロアー	25FL670	25FL670

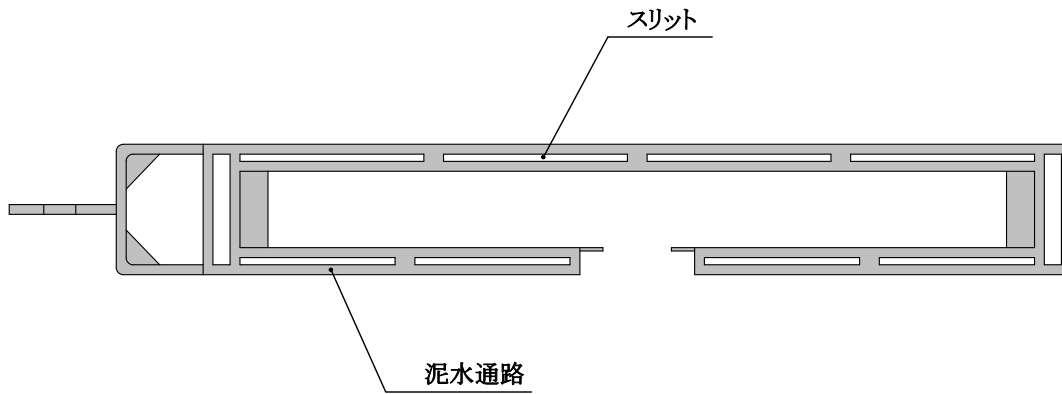
## ブレードシャフトネジ部のメンテナンス



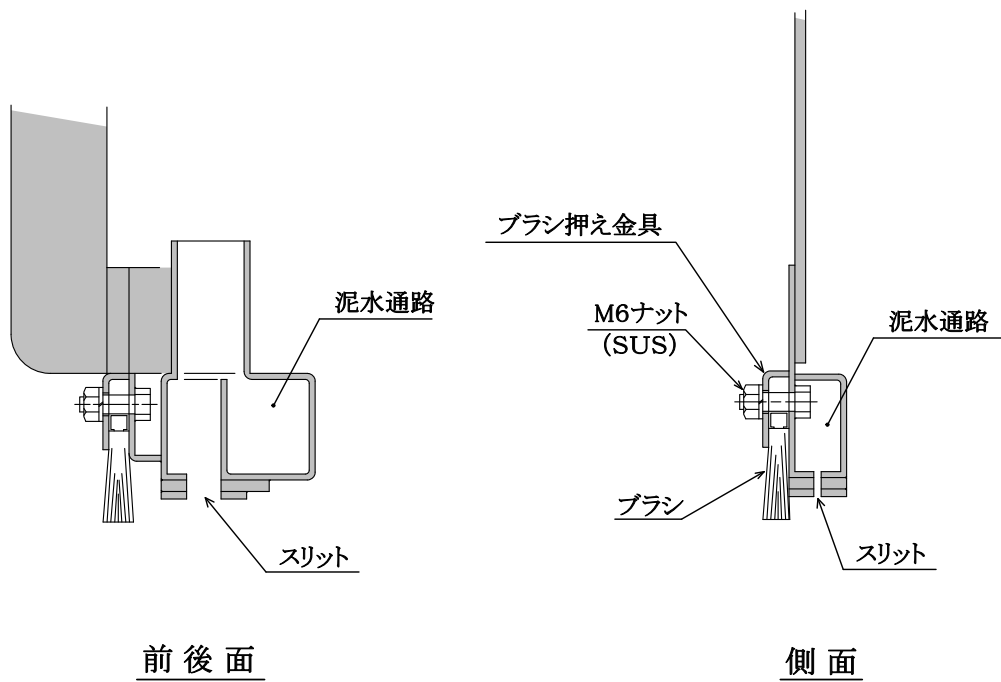
注油洗浄

- ・泥や埃がネジ山に挟まった状態で、ナットを締め付けるとオネジとメネジの噛み込やナットが摩耗してしまいます。始業前・始業後毎にブレードシャフトネジ部への注油、3日に一度パーツクリーナーを掛けながらワイヤーブラシ等でシャフトネジ部の洗浄をお願いします。

ブレードカバー汚水通路の掃除

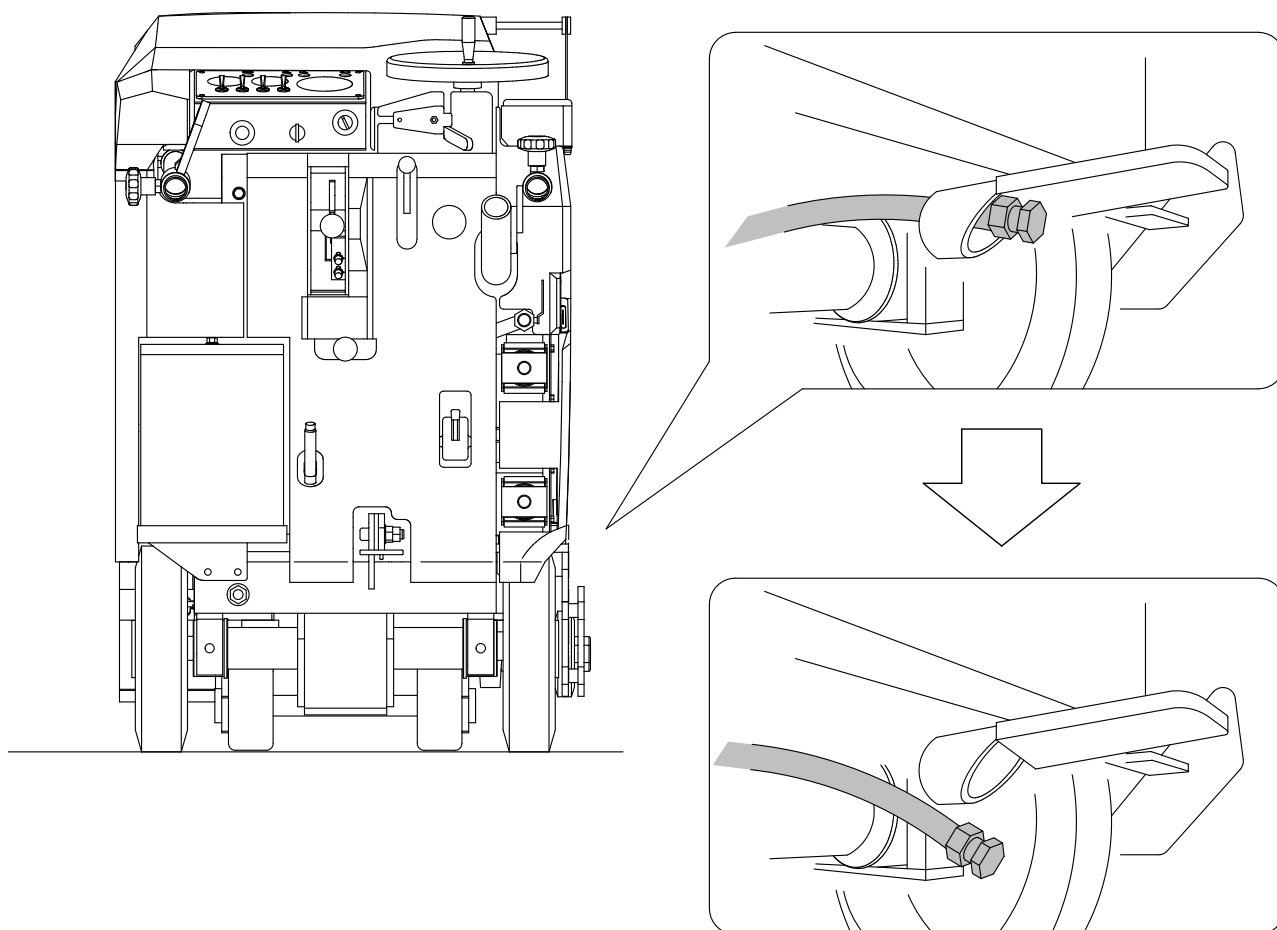


ブレードカバー 底面



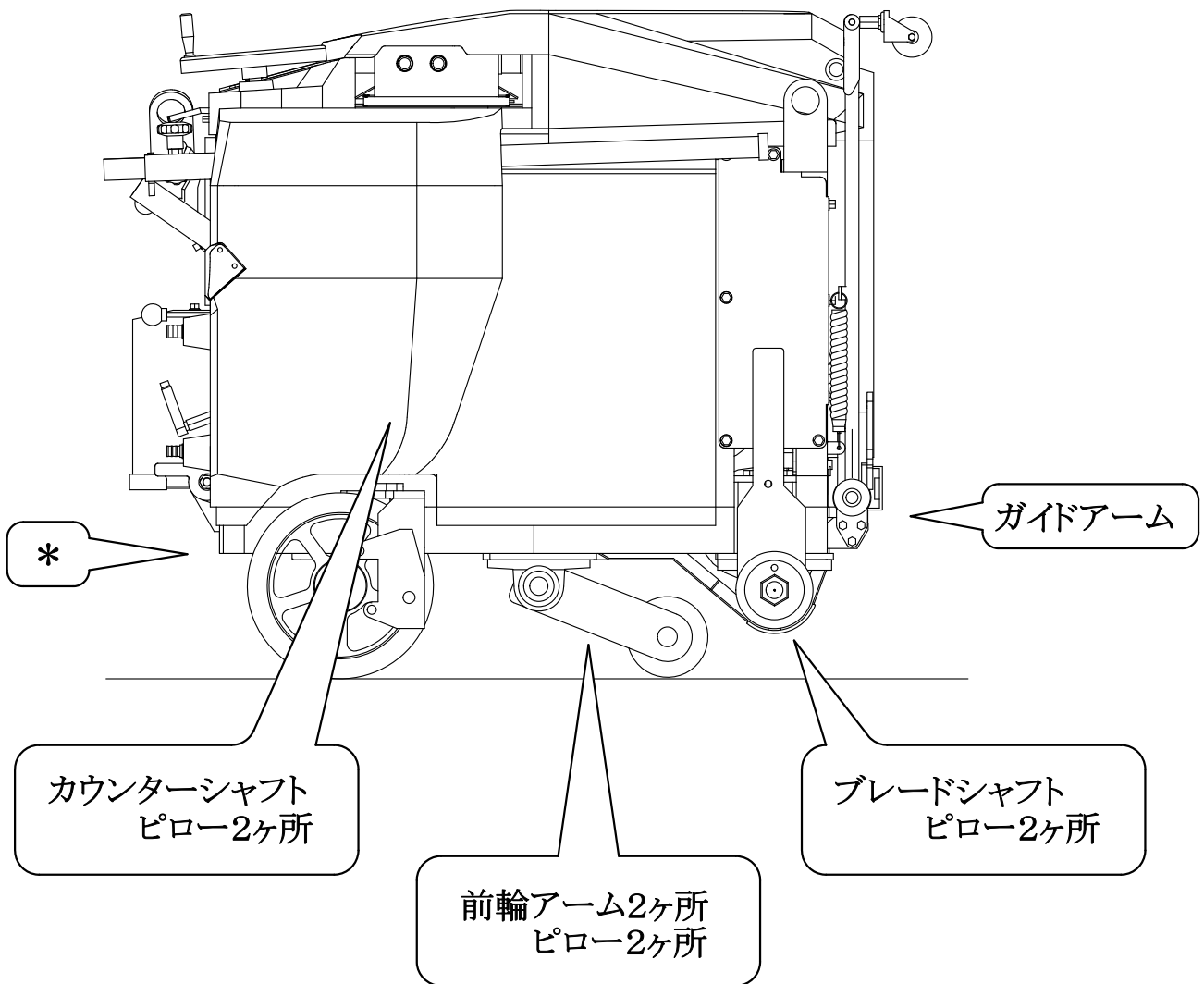
泥水通路内、スリット等に泥の詰まりはないか確認して下さい。

## エンジンオイル抜き手順



\* 廃油を入れる容器を用意して、右後車輪内側に格納されているドレインホースよりエンジンオイルを抜いて下さい。

## グリスアップ箇所

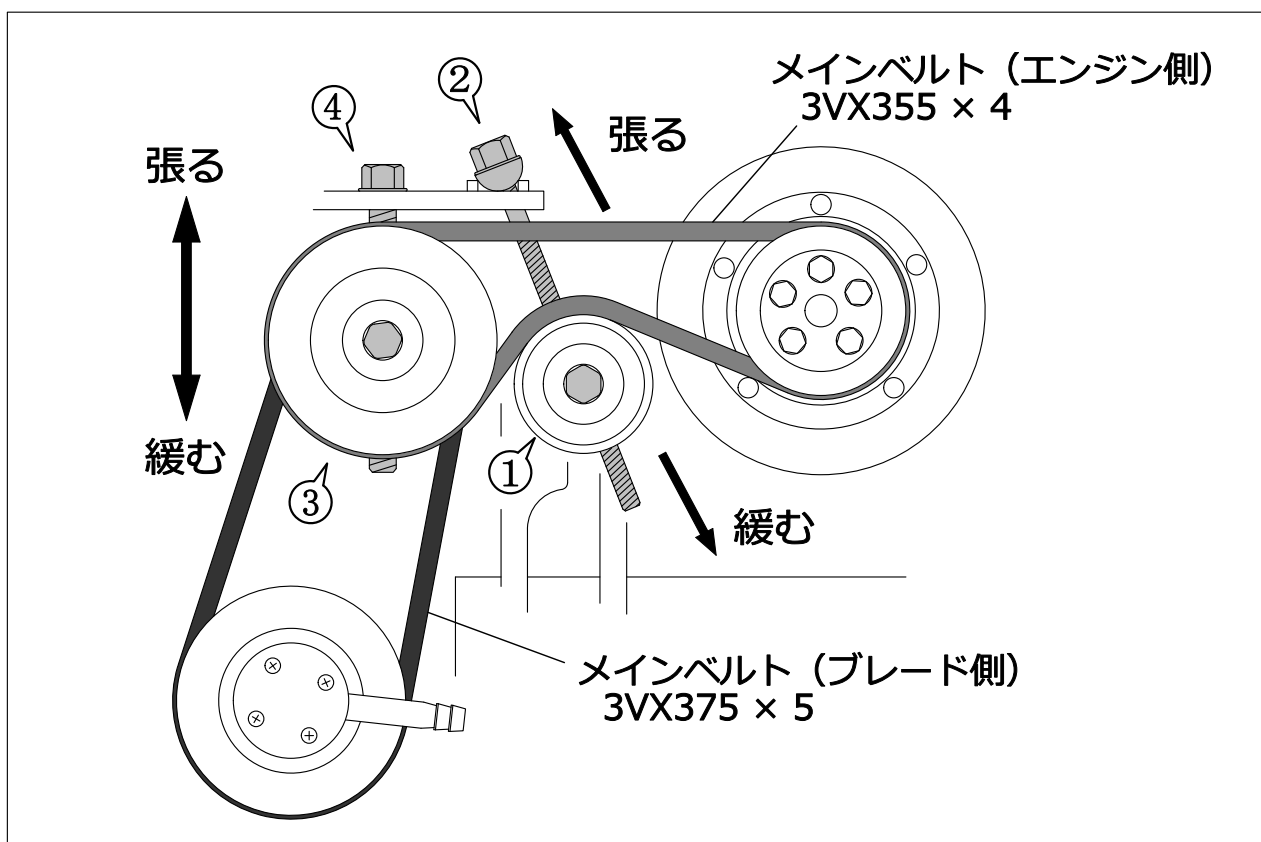


\* オプション

グリスアップ集中配管を付けている機械のカウンターシャフトピローグリスアップ箇所

## ベルト交換手順

iila 20



\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

## メインベルト (3VX355) 交換手順

- 1 バッテリー側の左サイドカバー前を開ける(外す)。
- 2 ①部のボルト(対辺19)を緩める。
- 3 ②部のボルトを廻し、①部のプーリーを下にスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら、①部のプーリーを上スライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 5 ①部のボルト(対辺19)を締め付ける。

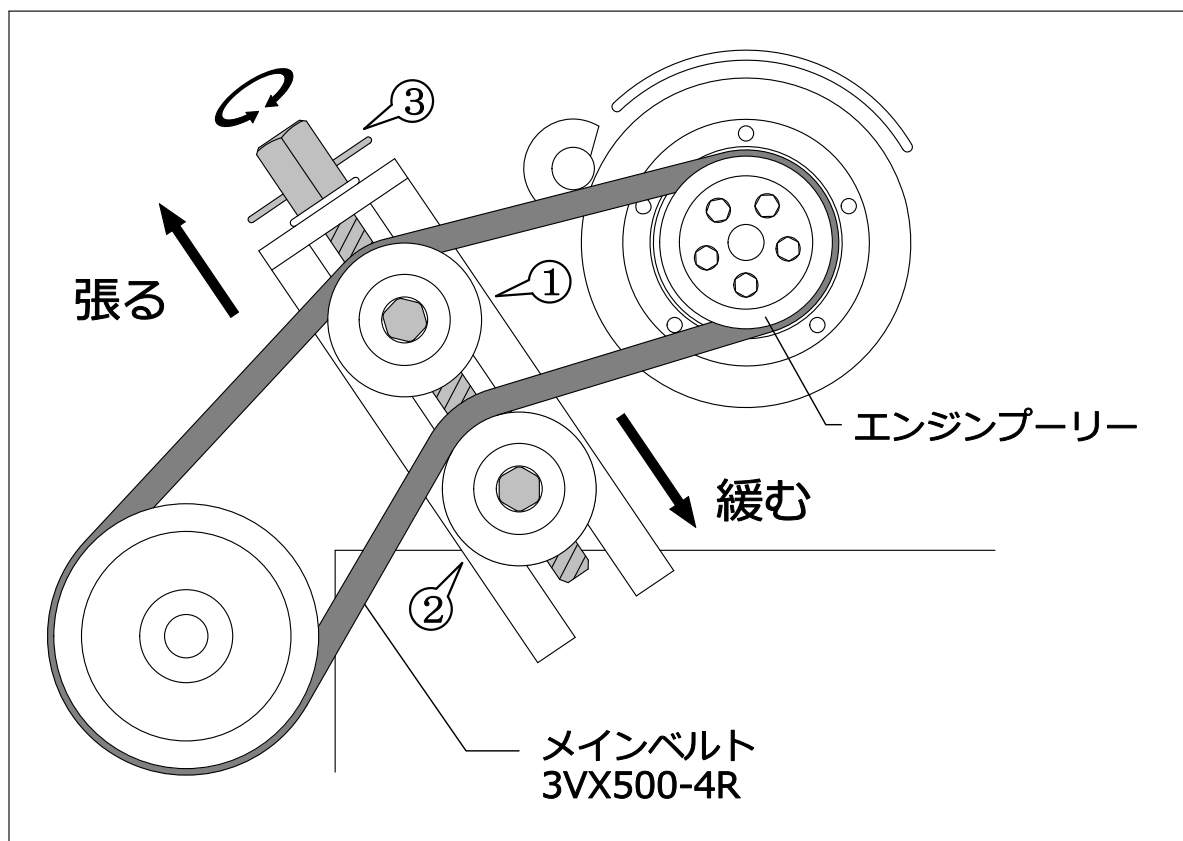
## メインベルト (3VX375) 交換手順

- 1 メインベルト(3VX355)の交換手順 1~3 を行う。
- 2 ③部のボルト(対辺19)を緩める。
- 3 ④部のボルトを廻し、③部のプーリーを下にスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら、③部のプーリーを上スライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 5 ③部のボルト(対辺19)を締め付ける。
- 6 メインベルト(3VX355)の交換手順 4~5 を行う。

## ベルト交換手順 iila 30 (ミッション付)

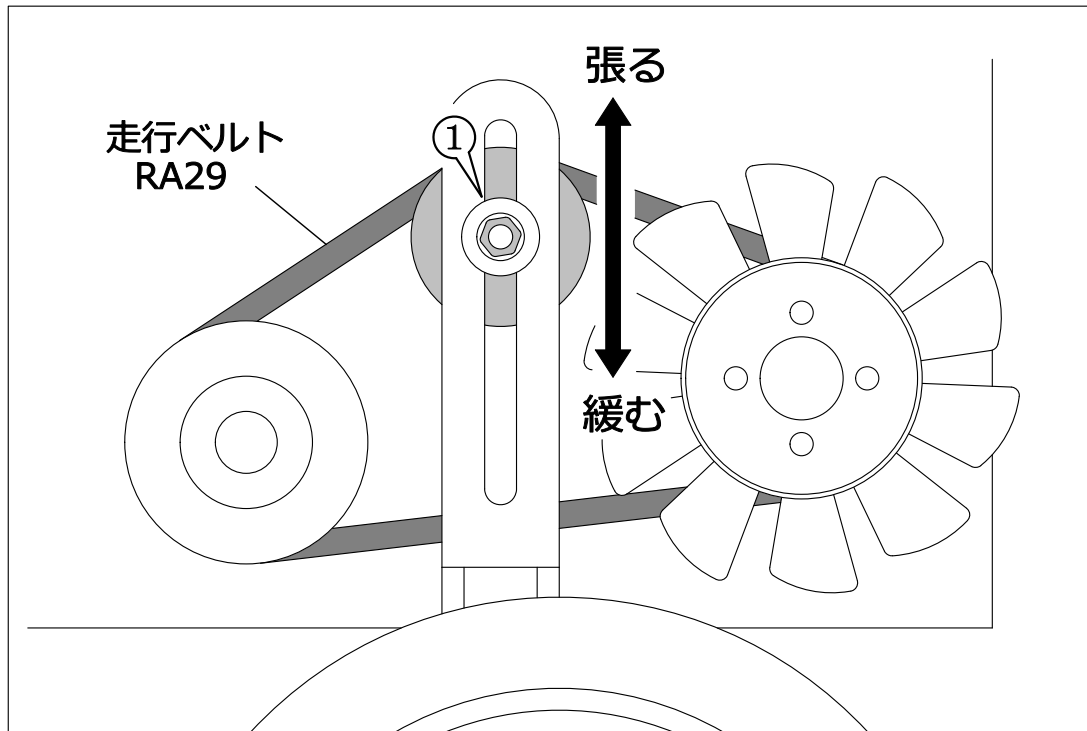


\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

### メインベルト (3VX500-4R) 交換手順

- 1 バッテリー側の左サイドカバー前を開ける(外す)。
- 2 ①, ②部のボルト(対辺19)を緩める。
- 3 ③部のボルトを廻し、①, ②プーリーを下にスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら、①, ②部のプーリーを上スライドさせベルトを張る。  
\* ベルトの張り過ぎに注意して下さい。
- 5 ①, ②部のボルト(対辺19)を締め付ける。

## ベルト交換手順



\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

### 走行ベルト(RA29)交換手順

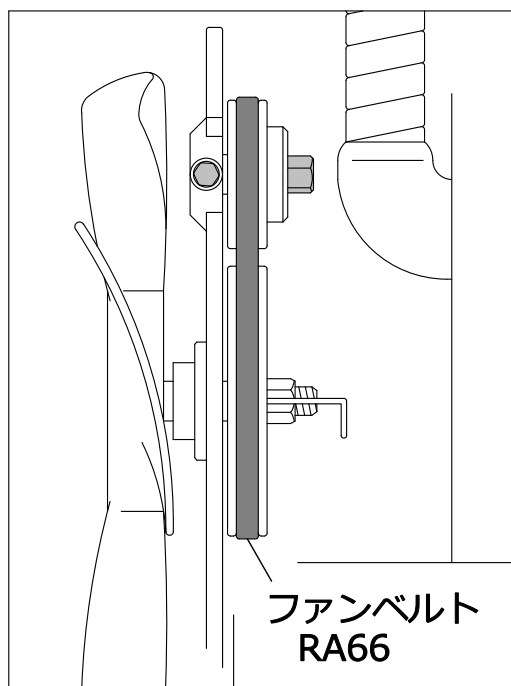
- 1 バッテリー側の左サイドカバー後を外す。
- 2 ①部のナット(対辺19)を緩める。
- 3 ①部のプーリーを下にスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら、①部のプーリーを上スライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

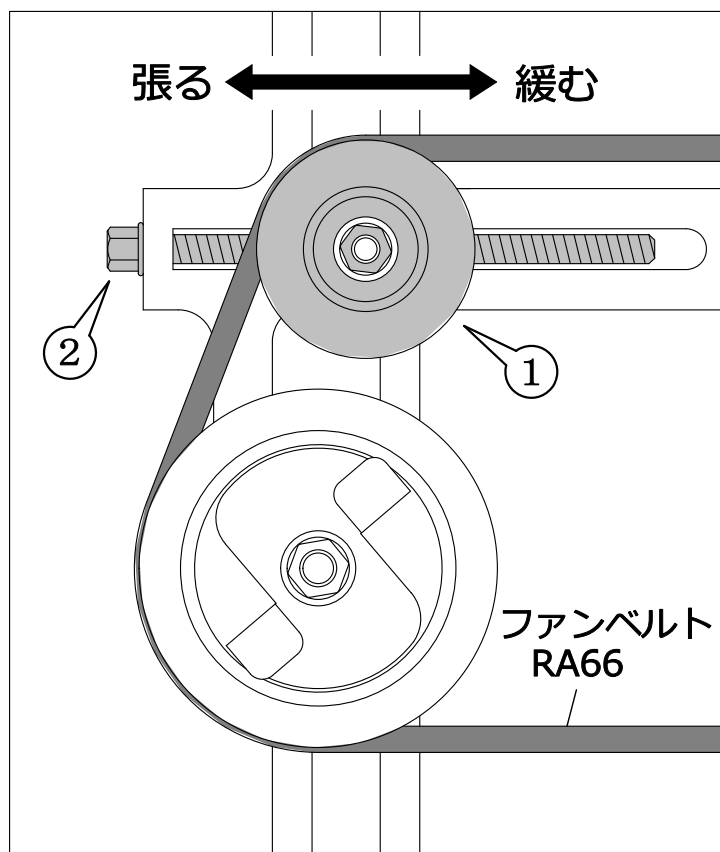
- 5 ①のナット(対辺19)を締め付ける。



## ベルト交換手順



\* 左サイドカバー前を開けた時に見える



\* エンジン側から見た時

\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

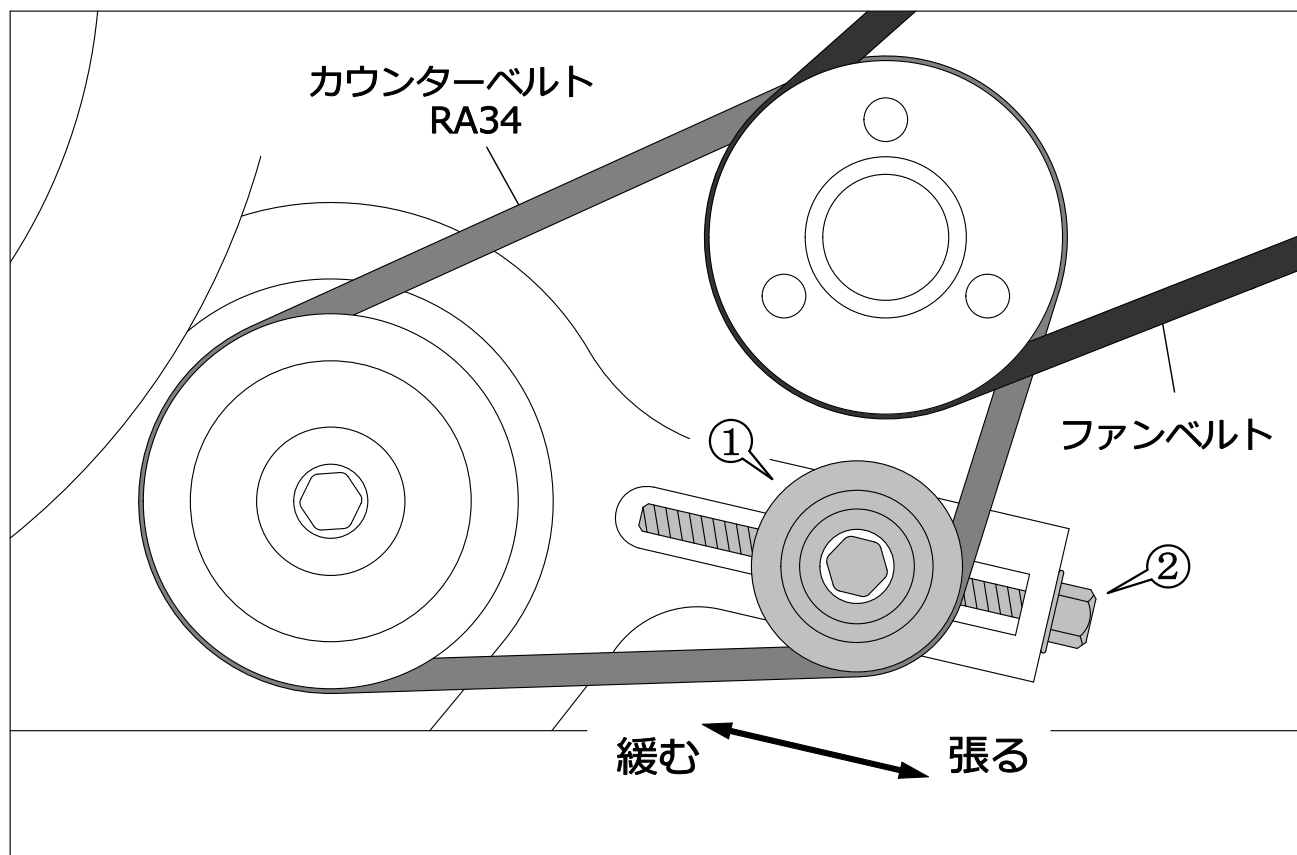
### ファンベルト (RA66) 交換手順

- 1 バッテリー側の左サイドカバー前, 右サイドカバーを開ける(外す)。
- 2 ①部のナット(対辺19)を緩める。
- 3 ②部のボルトを廻し, ①部プーリーを横にスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら, ①部のプーリーを横にスライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 5 ①部のナット(対辺19)を締め付ける。

## ベルト交換手順



\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

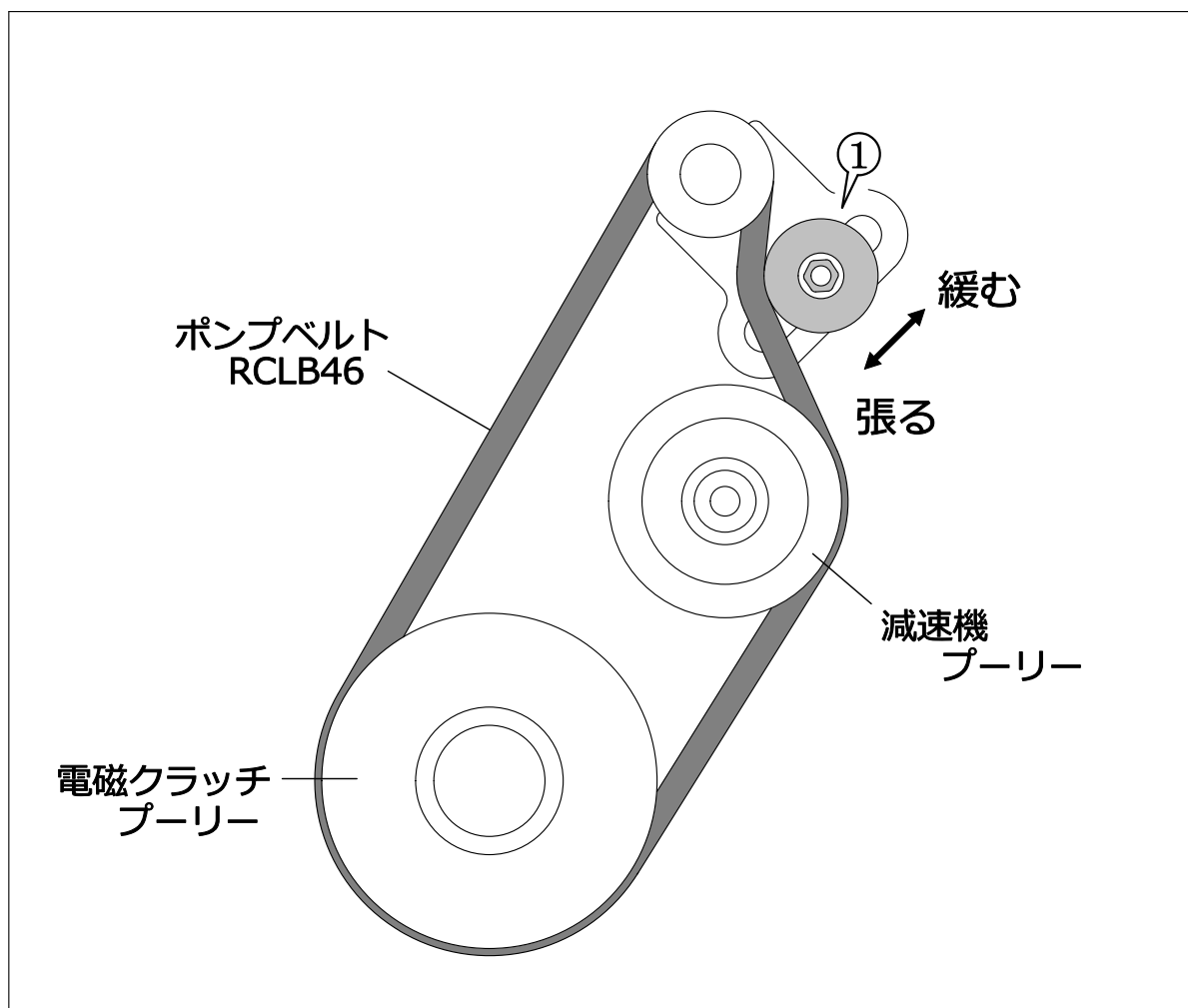
### カウンターベルト（RA34）交換手順

- 1 ファンベルト (RA66) の交換手順 1～3 を行う。
- 2 ①部のボルト (対辺19) を緩める。
- 3 ②部のボルトを廻し、①部のプーリーをスライドさせベルトを外す。
- 4 ベルトを交換したら、①部のプーリーをスライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 5 ①部のボルト (対辺19) を締め付ける。
- 6 ファンベルト (RA66) の交換手順 4～5 を行う。

## ベルト交換手順



\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

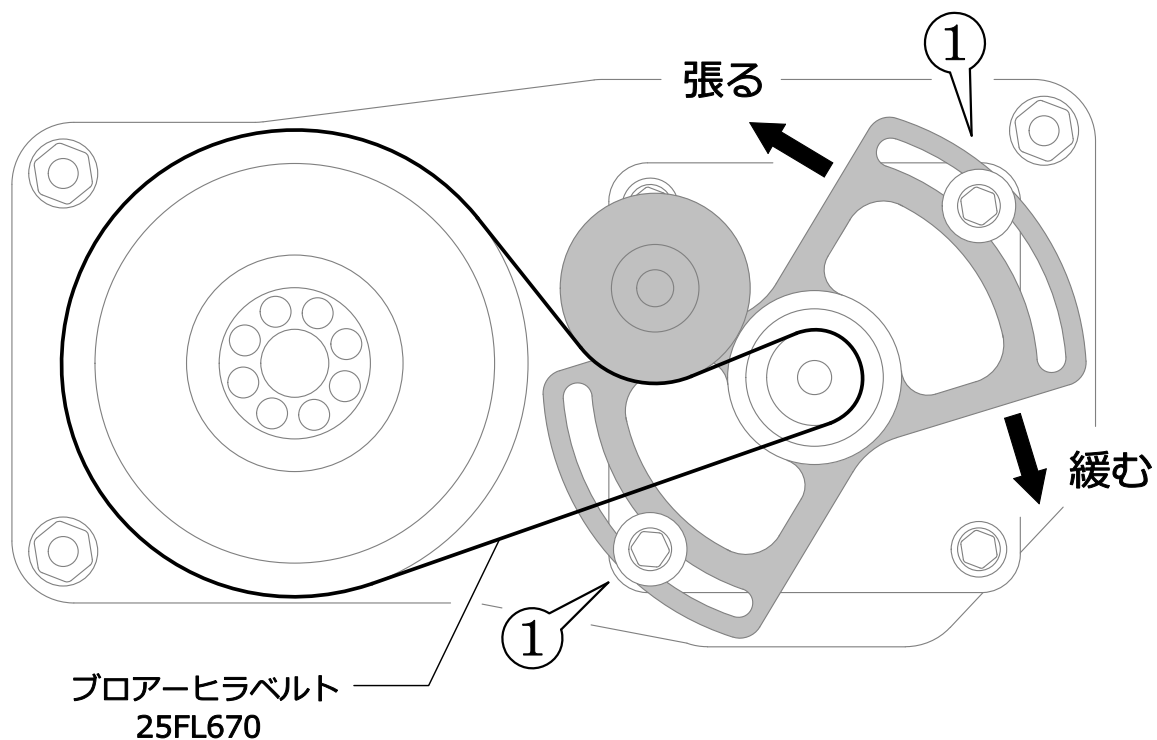
### ポンプベルト(RCLB46) 交換手順

- 1 カウンターベルト(RA34)の交換手順 1～3 を行う。
- 2 カウンターシャフトの電磁クラッチ廻り止め金具を外す。
- 3 ①部のナット(対辺19)を緩める。
- 4 ①部のプーリーをスライドさせベルトを外す。
- 5 ベルトを交換したら、①部のプーリーをスライドさせベルトを張る。

\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。

- 6 ①部のナット(対辺19)を締め付ける。
- 7 電磁クラッチ廻り止め金具を取り付ける。
- 8 カウンターベルト(RA34)の交換手順 4～6 を行う。

## ベルト交換手順



\*ベルト交換・張り直し作業を行う時は、エンジンが冷めている状態で行って下さい。

### ブローアーヒラベルト(25FL670)交換手順

- 1 ブレード側の右サイドカバーを外す。
- 2 ①のボルト(対辺13)2ヶ所を緩める。
- 3 ヒラベルトテンションブラケットを右廻しにスライドさせベルトを外す。
- 4 図のようにベルトを掛け交換したら、各プーリーのベルトの通りを合わせて下さい。
- 5 ヒラベルトテンションブラケットを左廻しにスライドさせベルトを張る。  
\*ベルトの張り過ぎに注意して下さい。
- 6 ①のボルト(対辺13)2ヶ所を締め付ける。

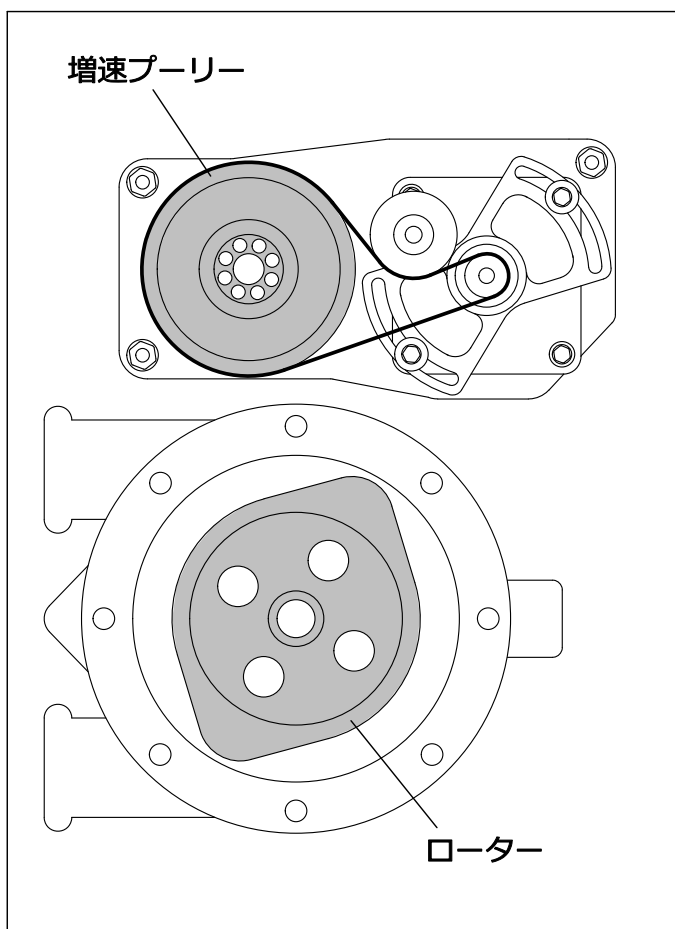
## 長期間使用しない場合

長期間（約1ヶ月以上）本機を使用していない状態のまま動かすと、オイルの乾きや各部の固着などにより機械動作に不具合が生じる恐れがあります。

週に1度（10～20分）程度は、

- エンジン
- 前後進
- 油圧昇降
- バキューム機構

など本機を動かし、不具合を未然に防ぐ事をお勧めします。



長期間本機を放置してしまった場合は、エンジンを掛ける前に

1. 右サイドカバーを外す
2. 増速プーリーを手で回す
3. 増速プーリーを回すとローターが回るので、2～3周回してチューブホースにオイルをなじませる

以上の作業を行って下さい。

その他プーリー各部、ベアリング等ベルトを緩めて手で回すなど固着していないか確認してから本機をお使い下さい。

## エンジン異常表示ランプ（M I Lランプ）について

エンジンの異常が発生した場合に点灯するランプがメーターパネルに付いています。

### 正常時

イグニッションON：点灯 エンジン始動、動作中：消灯

### 異常時

イグニッションON：点滅 エンジン始動、動作中：点灯

### 診断・点検

M I Lランプでの不具合・異常な箇所の特定はできません。  
不具合発生時の状況や機械の状態に応じて適切な整備をお願いします。

### M I Lランプ点灯の解消（消灯）について

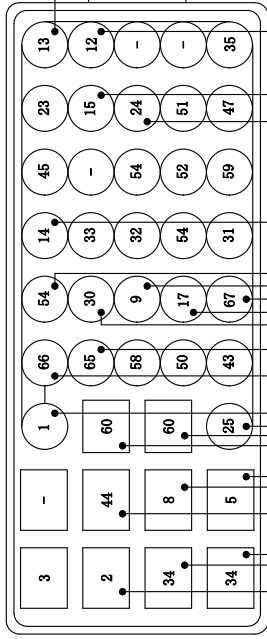
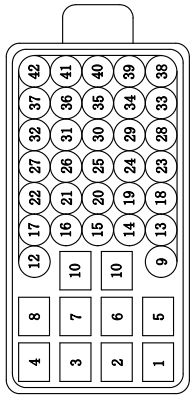
整備後、正常な状態であれば

- バッテリーのマイナス端子を取り外し、取り付けを行う
- そのまま使用する（半日～1日）

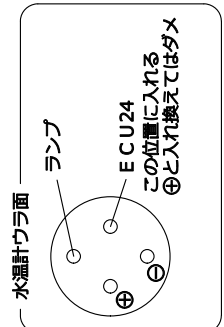
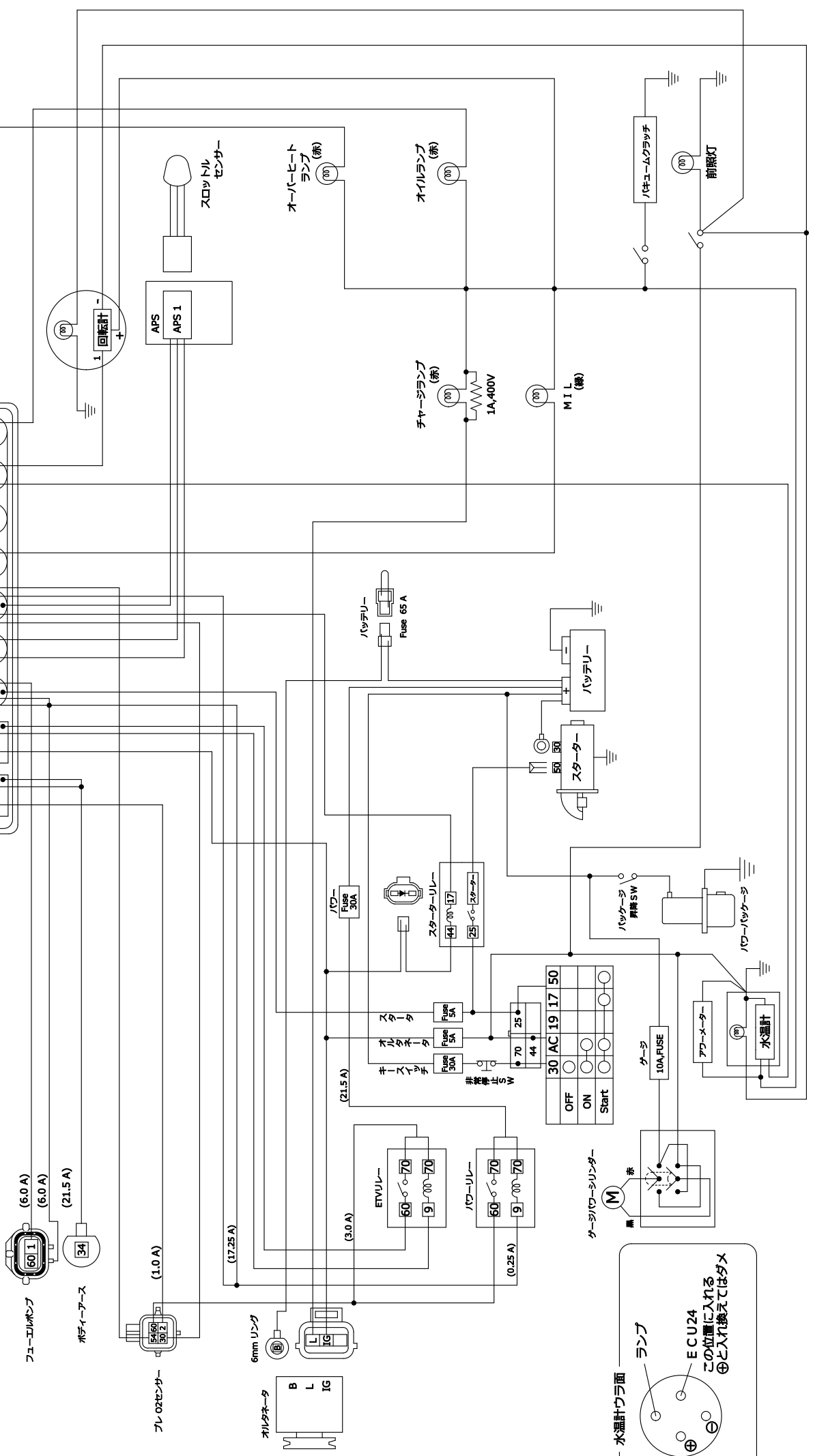
いずれかによりランプは消灯します。

# iila 配線図

CAVITY No.



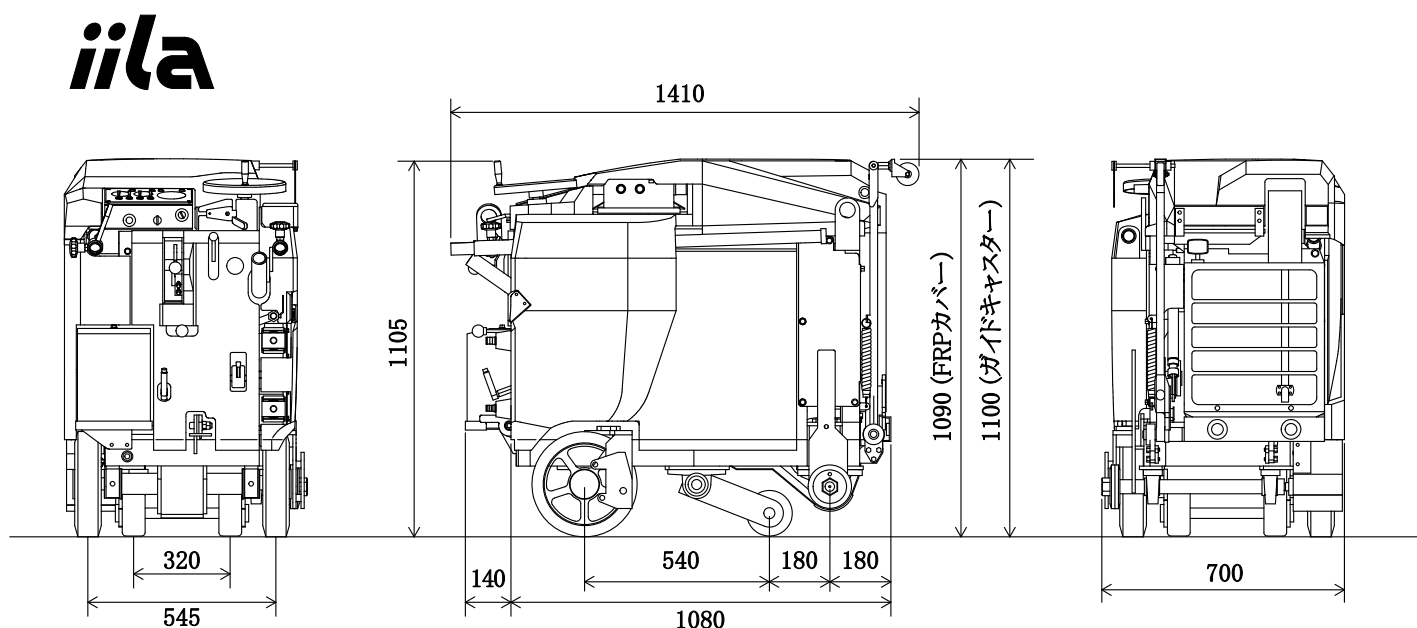
仲山仕様 ECU  
 output 1 → オイルランプ  
 output 2 → オーバーヒートランプ  
 output 3 → バッテリーランプ  
 output 4 → 水温計



## iila 仕様書

型式	iila 20	iila 30
エンジン	クボタ WG972 962cc 水冷直列3気筒電子制御燃料噴射方式	
最大出力	24.2KW(32.5PS)/3,600min <sup>-1</sup>	
連続定格出力	17.8KW(23.9PS)/2,500min <sup>-1</sup>	
本体サイズ	1410L×700W×1105H	
重量	495Kg	510Kg
ブレードミッション	—————	2段変速ミッション
切削深さ	推奨 200mm (最大300mm)	300mm
切断方式	湿式切断・ダウンカット方式	
深さ調節	油圧昇降式	
走行	HSTレバー調整 前進: 切削0~1km/h、廻送0~3.2km/h 後進: 0~500m/h、廻送0~1.5km/h	
バキュームユニット	吸気量: 2.0m <sup>3</sup> /min 排水ポンプ吐出量: 9ℓ/min	
燃料タンク	13 Liter	
ブレードカバー	12", 14", 18", 22" (26", 30")	12", 14", 18", 22", 26", 30"

\* 不断の研究開発により仕様等を予告なく変更する場合があります。







インフラの未来を切り開く  
**NAKAYAMA**  
**仲山鉄工株式会社**

〒426-0055  
静岡県藤枝市大西町3丁目14-1

TEL : 054(635)1383

FAX : 054(635)0418

URL : <http://www.nakayama-azz.co.jp>

E-mail : [info@nakayama-azz.co.jp](mailto:info@nakayama-azz.co.jp)